

## 凍蝶

松岡隆子

しんしんと池に日の降る神の留守  
日の影を珠と流して冬の水  
数珠玉の枯に風鳴る水辺かな  
柚道のみるみる昏れて烏瓜  
あをあをと月光降れる葱畑

楠の高さに冬の深みゆく  
小鼓の紐のくれなる初しぐれ  
冬の日のもつとも奥の観世音  
手囲ひの凍蝶に息吹きかくる  
師の声を探してゐたる紅葉山  
還らざる日々へ落葉を踏みゆけり  
マスクして言葉失ふこと怖し